調査船おおさか

・全　　長：20.1m
・総トン数：19トン
・最高速力：33.13ノット
・航海速力：30.0ノット
・船　　質：軽合金製
・主 機 関 ：ディーゼル機関
・就　　航：平成25年３月５日
・定　　員：16名

見学のご案内

大阪湾の漁業、魚などの模型やパネル、栽培漁業センターで生産しているキジハタなどが展示してあるほか、実際に稚魚を生産している水槽も見学することができます（水槽見学は要問合せ）。

＜見学時間＞
平日の午前９時30分から午後４時まで

アクセス

なんば駅
↓ 南海本線 特急・急行（約50分）
みさき公園駅
↓ 南海多奈川線 普通（約５分）
多奈川駅

- タクシー 約4.5キロメートル（約10分）→ 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター
- 岬町コミュニティバス（約16分）→ 谷川停留所 → 徒歩 約500メートル（約７分）→ 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター
- 岬町コミュニティバス（約５分）→ 谷川停留所
- 徒歩約1.9キロメートル（約24分）→ 地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所
水産技術センター
〒599-0311 大阪府泉南郡岬町多奈川谷川2926-1
TEL：（072）495-5252　　FAX.（072）495-5600
URL: https://www.knsk-osaka.jp/

ホームページ　水産技術センターX

地方独立行政法人
大阪府立 環境農林水産総合研究所
水産技術センター

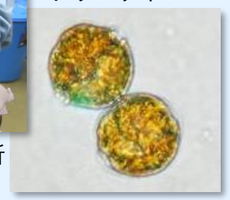
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture.

Marine Fisheries Research Center

水産技術センターでは、こんなことをやっています

調査船「おおさか」で水質を測定

採取した海水を分析



貝毒原因
プランクトン

海を見守る

大阪湾の環境の変化を知るため、昭和30年代から継続して大阪湾の水質を観測しています。
また、府民の食の安全を守るため、大阪湾で春先から発生する麻痺性貝毒の原因となるプランクトンを調査しています。

海辺を再生する

藻場・干潟には、水質の浄化や稚魚の育成の機能に加え、CO_2の吸収源となるブルーカーボン生態系としての役割があります。失われた都市部の海辺の藻場・干潟の再生をめざして、調査を行っています。

人工干潟の稚魚調査

調査で確認した
稚ガニ

岬町の
カジメ場

阪南市の
アマモ場

底びき網を使った生物分布調査

漁獲された魚を測定

イカナゴ稚魚を
大型ネットで採集

漁業者の会議で説明

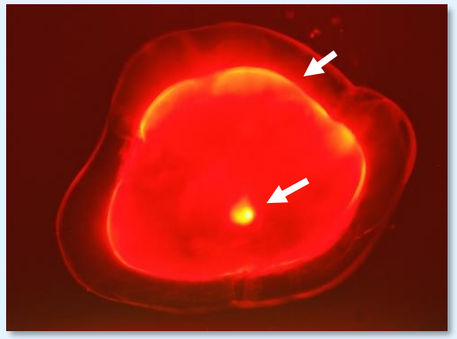
魚を調べる

水産資源を持続的に利用できるようにするために、水産資源の量や生態・分布を調べ、休漁日の設定や小型魚の保護など、効果的な資源管理方法を検討しています。

魚を増やす

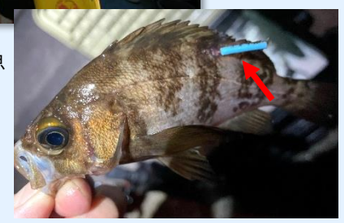
水産資源の増大をめざして、稚魚を育てて放流する栽培漁業を推進しています。稚魚の生産技術を開発するとともに、放流の際に稚魚に目印をつけ、放流後の成長や移動、生き残りを調査して放流効果の検討を行っています。

目印に胸びれを切除したトラフグの稚魚



天然トラフグと区別できるように染色した
放流トラフグの耳石（矢印は染色部分）

キジハタの
稚魚の放流



漁獲されたメバル標識魚
（矢印は標識）